



2026 年 6 月 29 日

各 位

会 社 名 株式会社ケイファーマ
代表者名 代表取締役社長 福島 弘明
(コード：4896、東証グロース)
問合せ先 常務取締役 CFO 松本 真佐人
(TEL. 03-6629-3380)

AMED 公募事業「再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム（疾患特異的 iPS 細胞を用いた病態解明・創薬研究課題）」の採択及び連携企業としての参画に関するお知らせ

当社は、連携企業として参画する研究課題が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（以下「AMED」）の公募事業「再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム（疾患特異的 iPS 細胞を用いた病態解明・創薬研究課題（個別型）」において、研究開発課題「抗精神病薬応答性の生物学的層別化に基づく統合失調症・双極症創薬基盤の構築」（研究開発代表機関：藤田医科大学）として採択されましたので、お知らせいたします。

1. 概要

統合失調症および双極症は、主要な精神疾患であり、慢性の経過や高い再発率を通じて患者さま・ご家族に深刻な負担をもたらす重要な医療課題です。一方、遺伝的要因が強いにもかかわらず原因遺伝子を特定しにくい「ポリジェニック疾患」であることから、作用機序に基づく新規創薬は長年停滞しており、患者ごとの生物学的差異に基づく治療戦略、すなわちプレジジョン・サイキアトリー（Precision psychiatry）の確立が求められています。

本研究課題は、藤田医科大学を研究開発代表機関とし、患者由来 iPS 細胞とポリジェニックリスク指標を用いて抗精神病薬への応答性を生物学的に層別化し、新たな創薬基盤を構築するものとなります。

当社は、慶應義塾大学医学部発のバイオベンチャーとして中枢神経領域に特化した「iPS 創薬」を推進してきた知見を活かし、ゲノム編集により自社で樹立したドパミン D2 受容体ノックアウト iPS 細胞株を、MTA（材料移転契約）に基づき比較対照株として提供する連携企業として参画します。あわせて、本研究で同定される創薬標的の社会実装に際しての優先交渉企業と位置付けられています。

当社は本研究を通じて、精神疾患領域における iPS 細胞を活用した創薬プラットフォームである「iPS 創薬」の強化を行うことで、将来的な統合失調症および双極症を標的にした治療薬の研究開発の実現および提携先との協業機会の拡大につなげてまいります。

なお、本件が 2026 年 12 月期の業績に与える影響はありません。

2. 参考

（1）精神疾患領域の市場規模

統合失調症および双極症の生涯有病率はそれぞれ約 1%、約 0.2～0.6%とされ、国内の精神及び行動の障害の総患者数は約 490 万人にのぼります（厚生労働省「令和 5 年（2023）患者調査」）。また、抗精神病薬の世界市場規模は 2025～2026 年時点で約 180～220 億米ドル（約 2.7～3.3 兆円）と推計され、2030 年代には年平均成長率 約 7～9%で約 270～410 億米ドルへ拡大すると見込まれています。

【出典】国内患者数：厚生労働省「令和5年（2023）患者調査の概況」。世界市場規模（抗精神病薬・統合失調症治療薬・双極症治療薬）：調査機関により定義・対象・数値に幅があります。

（2）ポリジェニック疾患（Polygenic disease）

単一の原因遺伝子ではなく、多数の遺伝子が微小なリスクを積み重ねることで発症に関与する疾患。統合失調症や双極症のほか、糖尿病・高血圧などが該当し、原因遺伝子の特定が難しいとされています。

（3）プレシジョン・サイキアトリー（Precision psychiatry：精密精神医学）

個々の患者の遺伝的・生物学的・心理社会的特性に基づいて、より精密に診断・治療を行う精神医学の新潮流。がん領域で普及した「プレシジョン・メディシン（精密医療）」の考え方を精神科領域に応用したものとなります。

（4）ポリジェニックリスク指標（Polygenic Risk Score：PRS）

多数の遺伝的変異を組み合わせて算出した、特定疾患へのなりやすさを示すスコア。個人の発症リスク予測や患者グループの分類に活用されております。

以上